

# いわき農林水産ニュース

(ふくしまからはじめよう。「食」と「ふるさと」新生運動ニュース)



5月号 発行 平成26年 6月4日

## 〈東日本大震災関連〉



### いわき地方の農林畜産物 モニタリング検査結果

福島県が行った、いわき地方の4月の農林畜産物の放射性セシウムモニタリング検査結果をお知らせします。

(表1) 農林畜産物の検査結果 (4月末現在)

1点も検出されなかった品目と検体数	検体の一部が検出された品目と検体数		検体の全てが検出された品目と検体数		計	
	11品目	2品目(※1)		1品目(※2)		
28検体	検出限界値以下の検体	基準値内で検出された検体	基準値超で検出された検体	基準値内で検出された検体	基準値以上で検出された検体	44検体
	13検体	2検体	0検体	1検体	0検体	

※1: くさそてつ(ごみ)(野生)、牛肉  
※2: ふきのとう(野生)

検査した14品目44検体のうち、11品目28検体全てにおいて、放射性セシウムが検査機器の検出限界値以下でした。内訳は(表2)のとおりです。

(表2) 1点も検出されなかった品目と検体数

フキ 4、葉ネギ 1、アスパラガス(施設) 2、キュウリ(施設) 4、トマト(施設) 4、ミニトマト(施設) 4、タラノメ 1、菌床しいたけ(施設) 2、菌床なめこ(施設) 1、豚肉 1、原乳 4
--

なお、くさそてつ(ごみ)(野生)、牛肉、ふきのとう(野生)については、それぞれ1検体に100ベクレル/Kg以下の放射性セシウムが検出されました。内訳は(表3)のとおりです。

(表3) 基準値内で検出された品目と検体数

品目	くさそてつ(野生)	ふきのとう(野生)	牛肉
検体数	2	1	13
(うち基準値内)	(2)	(1)	(13)
内訳	100ベクレル/kg以下(最大値)	1(6.3)	1(24)
	検出限界値以下	1	0

4月30日現在、いわき地方産の農林畜産物で出荷が制限されているのは、(表4)のとおりです。

(表4) 出荷制限及び出荷自粛品目(4月末現在)

制限、自粛	区分	品目
出荷制限(9品目)	野菜・根菜・芋類	無
	果物	ユズ
	穀類	クリ
	山菜	たけのこ、ぜんまい、わらび、たらのめ(野生にもものに限る)、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ(露地)、野生きのこ
出荷自粛(1品目)	畜産物	無
	山菜	さんしょう(野生のものに限る)

また、昨年に引き続き平成25年産の米についても全袋検査を実施しており、4月末までの検査点数559,280点のうち、99.96%の559,037点が測定機器の測定下限値未満、243点が基準値内で検出されましたが、基準値を超過しましたものはありません。

(表5) 玄米(平成25年産)検査状況(4月末現在)

測定値区分(単位:ベクレル/kg)	測定下限値未満(<25)	25~50	51~75	76~100	100以上	計
検査点数(点)	559,037	240	2	1	-	559,280
割合(%)	99.96	0.04	0.00	0.00	-	100.00

調査結果は、福島県のホームページ「ふくしま新発売。」の農林水産物モニタリング情報、平成24・25年産米については、「ふくしまの恵み安全対策協議会」で簡単に検索できますので、結果をご確認ください。



## 震災後初!! コウナゴの試験操業

いわきでは、震災後初めてとなるコウナゴの試験操業が行われました。春に最盛期を迎えるコウナゴ漁は、福島県沿岸漁業において、水揚げ量、金額ともに大変重要な魚です。

震災当時、沿岸近くに分布していたコウナゴは、原発事故の影響を強く受け、福島県で、最初に出荷制限の対象となった魚種でした。しかし、コウナゴは、翌年には、新たに生まれた世代が漁獲対象となり、また食物連鎖でも低次に位置することから、放射性セシウムは速やかに低下し、県の緊急時モニタリングでは、平成25年以降全て不検出となっています。

3月から開始されたコウナゴの試験操業では、最大3.8トン/日の水揚げがあり、4月9日までに約10トンが水揚げされました。震災前と比較すると、まだ小規模ではありますが、多くの沿岸漁業者が参加することができたことによって、浜に活気がみられました。

水揚げされたコウナゴは、茨城県の加工業者に引き渡され、コウナゴ干しに加工された後に築地やいわき等の中央市場へ出荷されましたが、価格は他県産よりもやや低い傾向がみられ、今後は、風評対策にも力を入れる必要があると思われます。



(コウナゴの状態を確かめる漁業関係者)



(水揚げされたコウナゴ)



## 錦・関田地区安全 祈願祭及び起工式

4月14日(月)、四時川沿岸土地改良区及び錦・関田地区ほ場整備組合等の主催による復興基盤総合整備事業錦・関田地区の安全祈願祭並びに起工式が錦町原田地内において開催されました。この事業は、東日本大震災による津波の被害を受けた農地を地域農業の復興に向けて整備するもので、平成25～27年度の3年間で農地整備事業(整備面積A=57.8ha、事業費13億1,600万円)を実施する計画となっています。いわき管内では、錦・関田地区が下仁井田地区(四倉町)に続いて2地区目の着工となり、管内の復興基盤整備工事が本格化します。

本地区は、標高が低い沿岸部の農村地域であることから、震災の以前からたびたび湛水被害に見舞われてきました。これに加え、震災による地盤沈下が重なり、更に状況が悪化したことから、農地の整備と併せて、排水対策の強化にも取り組んでいきます。

安全祈願祭では、鍬入れの儀や玉串の奉納などが行われ、関係者が工事期間中の安全を祈りました。その後の起工式では、関係者が地域に対する想いや事業への強い期待を述べていました。

今後、関係者が一丸となって錦・関田地区の地域農業の復興に向け、事業を進めていきます。



(鍬入れの様子)



(参加者全員で安全を祈願)



## いわき地方山火事 防止連絡協議会

4月15日（火）にいわき地方山火事防止連絡協議会を開催しました。この協議会は、森林資源の維持と自然環境の保全を図るため、関係機関の方々と広く市民に対して山火事防止の啓発に努めることを目的に開催しています。

春先のこの季節は、空気が乾燥し山火事の発生しやすい期間であり、今年は協議会の2日前にいわき市内で大規模な山火事が発生したばかりでした。

協議会では、各会員が行う山火事防止の啓発活動の実施計画を協議し、会員が連携を図り積極的な山火事防止啓発活動に努めていくことを確認しました。

この記事をご覧の皆様も山へ入る際や農作業での火気の取扱いにはくれぐれもご注意ください！



（協議会の様子）



## 第2弾!! 「いわき野菜de チョコベジ」開催

4月20日（日）、JAいわき市直売所新鮮やさい館の主催（後援：福島県いわき農林事務所、いわき市見せる課）による、いわき市産の野菜を使った第2回親子チョコベジ体験が開催されました。「チョコベジ」とは、野菜にチョコレートソースを付けて食べる、野菜をより楽しく・おいしくする新しいスタイルの食べ方です。

参加者は市内の10組33名の親子で、今回はお父さんの出席も多く、親子でわきあいあいと楽しんでいました。

講師の野菜ソムリエの木下麻美さんから、当日食べる野菜（葉ねぎ、かぶ、コマツナ、菜花、ミニトマト）のマメ知識を話していただいた後、親子でチョコレートソースづくり、野菜を切る体験をしました。葉ねぎだけはさっとゆでて、他の野菜は生でいただきました。

子供たちは、「かぶはこのままでもおいしい!」、「葉ねぎ、甘くておいしい!」と、チョコベジを楽しみながら、食材そのものの味も堪能していました。

今回の参加者には、盆栽ナメコがお土産として配られ、収穫の楽しみもお持ち帰りいただきました。

早くも、第3弾夏野菜のチョコベジが7月に開催されることとなり、継続的に開催することで若い世代の方々にも、いわき市産野菜のファンが増加することにつながってほしいと思います。



（いわき市産の野菜）



（親子で料理体験）



(木下麻美さんから豆知識の紹介)



(盆栽ナメコの紹介)



## JAいわき市ファーマーズ マーケット部会定期総会

4月25日(金)、シャン・ブリアン(いわき市小名浜住吉)において、JAいわき市ファーマーズマーケット部会の定期総会が開催されました。

当部会は、5つの支部が市内3カ所の直売所に農作物を出荷するなど、地産地消の拠点として貢献しています。

総会では、昨年度の事業報告及び収支決算の報告があり、直売所への集客が徐々に回復してきていることの説明がありました。また、今年度の計画では、放射性物質に関する風評被害払拭に向けた各種イベントの開催やわかりやすいモニタリング検査体制の展示など、昨年度に引き続き、安全・安心な生産活動や啓発事業の取組等が承認されました。

総会終了後、「食品表示研修会」と題して、企画部食品表示担当者による講話が行われ、直売所に出荷される農産物や加工食品の誤った表示や表示事項の欠落などの事例と是正方法などを紹介し、食品表示の適正化の徹底を確認しました。

また、放射性物質に係るいわき市産農産物の出荷制限等の現状を紹介し、直売所における産地の市町村名表示の徹底を確認しました。

農業振興普及部からは、放射性セシウム吸収抑制対策、農薬の適正使用、各種農業研修会の案内などの説明がありました。参加者からは、安全な農産物の栽培・出荷に向けた質問があり、意見交換が行われました。



## 「緑の募金」街頭募金 が実施されました

4月28日(日)、いわき市緑化推進委員会の主催による「緑の募金」街頭募金がいわき・ら・ら・ミュウ及びアクアマリンパークにおいて実施されました。

この街頭募金は、毎年4月1日～5月31日の「緑の募金運動推進期間」に実施されております。今年は「木を植えて百年先の森づくり」をテーマに、いわき市立泉小学校緑の少年団35名とサンシャインガイドいわき2名、磐城森林管理署、いわき市森林組合、県造園建設業協会いわき支部、県いわき農林事務所の協力のもとに行われました。

当日は好天に恵まれ多くの観光客が会場を訪れる中、活動場所の随所で少年団の募金を呼びかける元気な声が響きました。募金は、観光客だけでなく地元商店街の方々からも寄せられました。

募金に協力をいただいた方には、緑の羽根のほか、ペチュニアやマリーゴールドなどの花の苗が緑の少年団より配られ、色鮮やかな花の苗を手にした親子連れなどが笑顔を浮かべる光景があちらこちらで見られました。

地域緑化推進のため、これからも「緑の募金」にご協力をよろしく願います。



(募金をしていただきました)



## 田んぼのパネル展 《農空間 復旧への取組み》

東日本大震災により、福島県の農業・農村が受けた被害の状況やその後の復旧に向けた取組などのパネルを展示します。

＜日程＞

・平成26年6月10日(火)～26日(木)

＜会場＞

・いわき・ら・ら・ミュウ 市民展示ギャラリー(2階)

・いわき市小名浜字辰巳町43-1

＜主催＞

・福島県農林水産部 農村計画課



### 「福島県森林審議会」 委員公募のお知らせ

県は、本県の森林・林業の持続的な発展を目指し、森林・林業に関する様々な事項について審議するため、知事の附属機関として福島県森林審議会を設置しています。

県民の皆様からの御意見を幅広くお聴きし、森林・林業行政に反映するため、2名の委員を公募いたします。多くの皆様からの御応募をお待ちしております。

(1) 任期：委嘱の日から2年間

(2) 委員総数：15名(うち公募委員2名)

(3) 募集期間：平成26年5月29日(木)～6月27日(金)

＜お問い合わせ先＞

福島県農林水産部森林計画課(県庁西庁舎6階)

・電話：024-521-7423

・FAX：024-521-7543

・電子メール：

shinrinkeikaku@pref.fukushima.lg.jp

＜森林計画課ホームページ＞

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36055a/shinrinkeikaku.html>

## いわき農林事務所からのお知らせ

○ふくしまの最新情報を「ふくしま 新発売。」に掲載しています

のでどうぞご利用ください。

<http://www.new-fukushima.jp/index.html>

1 「がんばろう ふくしま応援店！」一覧

2 イベント情報

「東日本大震災」  
及び「原発事故」からの  
復興のために！



◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。

福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課

〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地

(県いわき合同庁舎 3階)

T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196

U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

いわき農林水産ニュース

